



“地域のことは地域で考えよう”

2018年10月29日

おきぎん県内景況・速報

2018年9月

—県内景況は、拡大している—

■個人消費

スーパー売上高は、全店ベース、既存店ベースともに前年同月を下回る。
百貨店売上高は前年同月を上回る。
家電卸出荷額は前年同月を下回り、新車販売台数は上回る。

■建設関連

公共工事請負金額は前年同月を上回る。
生コンは前年同月を上回り、セメントは下回る。

■観光関連

入域観光客数は前年同月を下回り、観光施設入場者数も下回る。
ホテル稼働率は、ビジネスホテルが前年同月を上回り、シティホテル、リゾートホテルは下回る。ホテル客室単価は前年同月を上回り、宿泊収入(推計値)も下回る。

■企業倒産

件数、負債総額はともに前年同月を上回る。

現場主義とお客様からの信頼

※お気づきの点、不明な点などがございましたら、下記までご連絡ください。

(株)おきぎん経済研究所

TEL:098-869-8711 FAX:098-869-2200

おきぎん県内景況・速報(2018年9月分)

◎2018年9月 おきぎん「カトレア」景況図



◎概況：県内景況は、拡大している。

9月の県内景況は、個人消費関連では、スーパー売上高は、旧盆時期のズレや台風の影響により、全店ベース、既存店ベースともに、前年同月を下回りました。百貨店売上高は、前年同月を上回りました。耐久消費財である家電卸出荷額は、前年同月を下回りました。新車販売台数は、前年同月を上回りました。

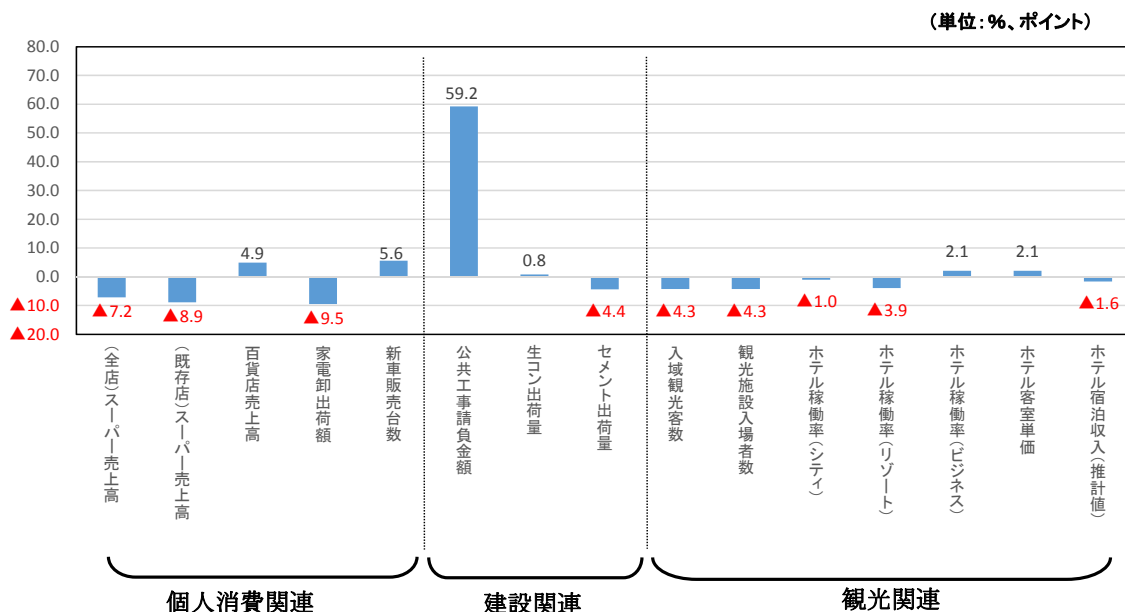
建設関連では、公共工事請負金額は、市町村や国などによる発注工事の増加などで前年同月を上回りました。建設資材である生コンは前年同月を上回り、セメントは下回りました。

観光関連では、入域観光客数は2ヵ月ぶりに前年同月を下回り、観光施設入場者数も前年同月を下回りました。ホテル稼働率はビジネスホテルが前年同月を上回り、シティホテル、リゾートホテルは下回りました。ホテル客室単価は前年同月を上回り、宿泊収入(推計値)は下回りました。

このような状況に鑑みて、個人消費や建設関連が概ね堅調であり、観光関連でも好調な動きが継続していることなどから「県内景況は拡大している」と景気判断を据え置きました。

(2014年2月の上方修正後から56ヵ月連続で判断維持)

主要景気指標前年同月比



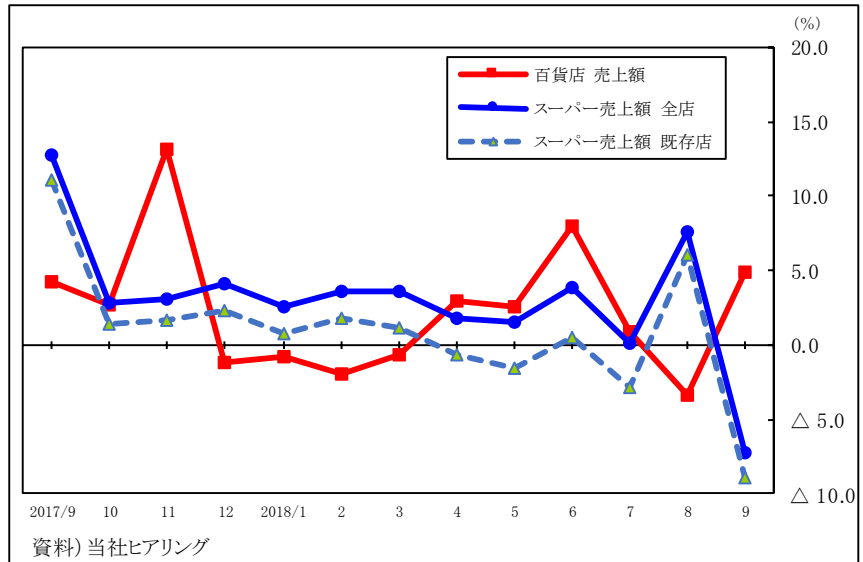


■ 個人消費： (やや良い)

① スーパー・百貨店売上高…スーパー売上高は、全店ベース、既存店ベースとも前年同月を下回り、百貨店売上高は前年同月を上回る。

単位：%

	スーパー売上額		百貨店 売上額
	全店	既存店	
2017/9	12.8	11.1	4.2
10	2.8	1.4	2.7
11	3.1	1.7	13.2
12	4.1	2.3	△ 1.2
2018/1	2.6	0.8	△ 0.8
2	3.6	1.8	△ 1.9
3	3.6	1.2	△ 0.6
4	1.8	△ 0.7	3.0
5	1.6	△ 1.5	2.6
6	3.8	0.5	8.0
7	0.1	△ 2.9	0.9
8	7.6	6.1	△ 3.3
9	△ 7.2	△ 8.9	4.9



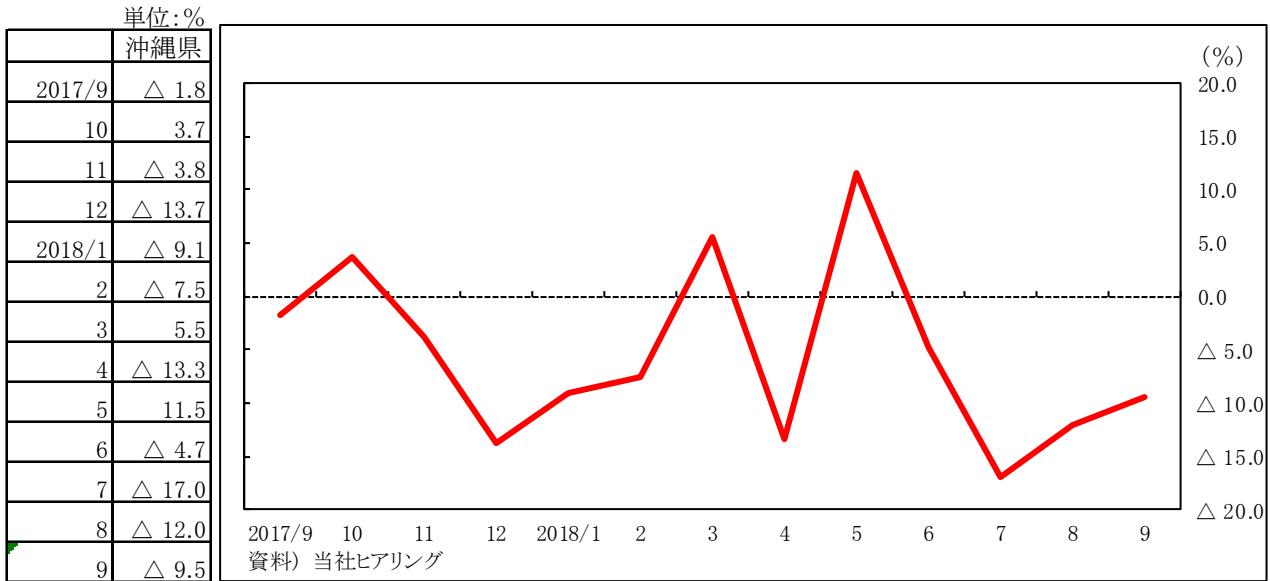
注) 前年同月比

9月の個人消費関連では、スーパー売上高「全店ベース(前年同月比7.2%減)」は、旧盆が8月に前ずれしたことや、台風の影響などにより「食料品(同9.0%減)」を中心に売上が伸びず、13ヵ月ぶりに前年同月を下回りました。

「既存店ベース(同8.9%減)」は、旧盆の時期が前ずれしたことや、台風による停電の影響などから、売上が伸びず、2ヵ月ぶりに前年同月を下回りました。品目別では、ウエイトの高い「食料品(同10.9%減)」は、旧盆の時期が8月(前年は9月3日～9月5日)になったことや、台風襲来による臨時休業、停電による営業時間短縮などの影響により、惣菜を中心に、生鮮、青果など、一般的に売上が伸びず、前年同月を下回りました。「衣料品(同1.1%減)」、エアコンなどの家電を含む「家庭用品(同3.0%減)」は、台風の影響や前年に比べ気温が低く推移したことなどから、夏物商材を中心に売上が伸び悩み、前年同月を下回りました。

百貨店売上高は、2ヵ月ぶりに前年同月を上回りました(同4.9%増)。内訳をみると、ウエイトの高い「衣料品(同7.6%減)」は、「紳士服(同1.1%増)」が販促企画により、かりゆしウェアやカジュアルウェアの売上が伸びたものの、「婦人服(同1.3%減)」は台風の影響などにより集客が伸びず、前年同月を下回りました。また、「食料品(同0.1%減)」は、物産展など催事企画は好調だったものの、旧盆が8月に前ずれした影響により前年同月を下回りました。一方、「雑貨(同23.4%増)」は、売り場のリニューアル効果や、インバウンド需要の増加などにより、化粧品を中心に売れ行きが好調であったことから、前年同月を上回りました。

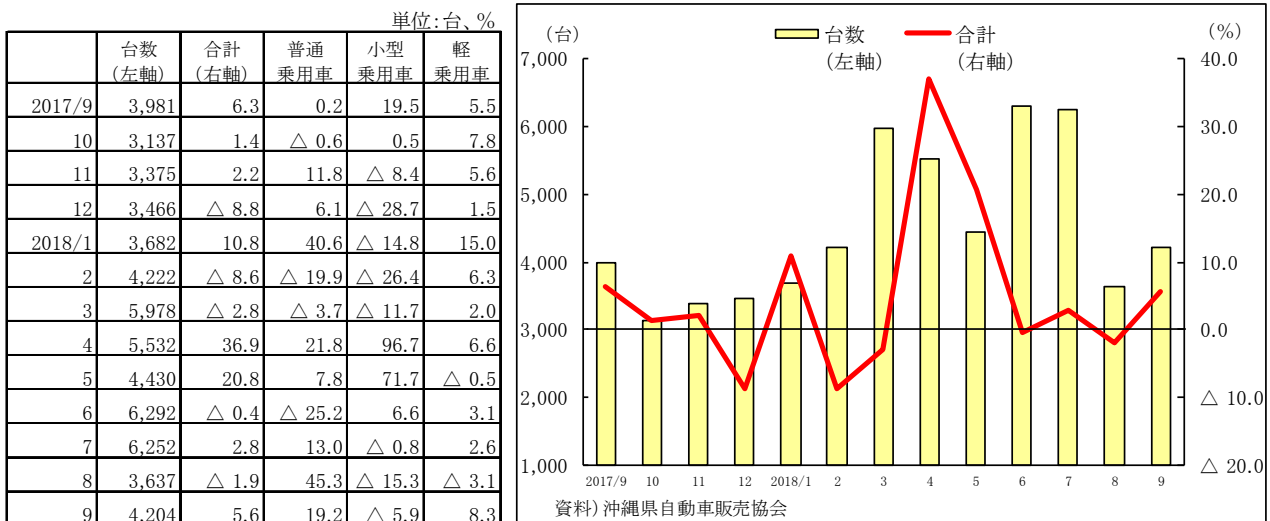
② 家電卸出荷額…家電卸出荷額は4ヵ月連続で前年同月を下回る。



注) 前年同月比

家電卸出荷額は、エアコンや冷蔵庫などの需要が減少し、4ヵ月連続で前年同月を下回りました(同9.5%減)。品目別では、「テレビ(同7.5%増)」は、4Kテレビなど高価格帯商品の売れ行きが好調で、前年同月を上回りました。「洗濯機(同35.9%増)」は、買い替え需要が増加し、前年同月を上回りました。一方、「エアコン(同8.4%減)」、「冷蔵庫(同17.8%減)」は、前年より気温が低く推移したことから需要が減少し、前年同月を下回りました。

③ 新車販売台数…新車販売台数は、2ヵ月ぶりに前年同月を上回る。



注) 前年同月比

注) 普通乗用車及び小型乗用車は登録車、軽乗用車は届出車の数値を表示。

新車販売台数は、全体で4,204台(同5.6%増)となり、2ヵ月ぶりに前年同月を上回りました。車種別では、「小型乗用車(同5.9%減)」は、自家用車需要が伸びず、前年同月を下回りました。一方、「普通乗用車(同19.2%増)」、「軽乗用車(同8.3%増)」は、自家用車需要やレンタカー需要が増加したことなどから、前年同月を上回りました。

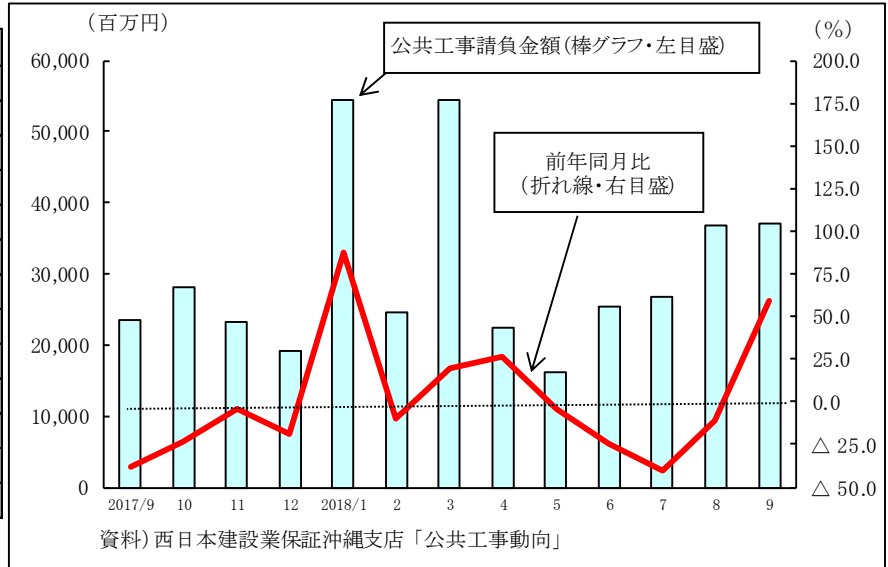
※普通乗用車及び小型乗用車は登録ベース、軽乗用車は届出ベースの数値を合算。

■ 建設関連：  (良い)

①公共工事・・・公共工事請負金額は前年同月を上回る。

単位:百万円、%

	請負金額	前年同月比
2017/9	23,363	△38.3
10	28,073	△23.5
11	23,134	△3.7
12	19,275	△19.4
2018/1	54,569	87.2
2	24,674	△10.3
3	54,532	19.7
4	22,513	26.3
5	16,134	△4.5
6	25,324	△24.9
7	26,729	△40.6
8	36,794	△11.5
9	37,192	59.2

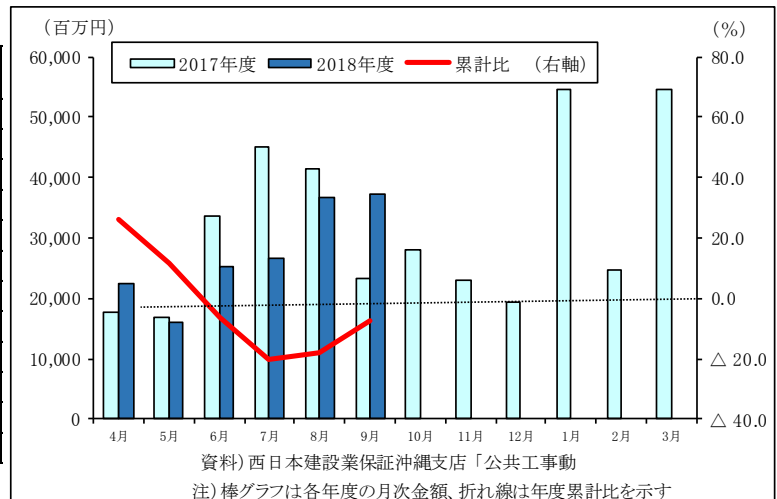


9月の公共工事請負金額は、前年同月比 59.2%増の 371 億 9,200 万円となりました(5ヵ月ぶり増)。発注者別でみると、「国(同 35.7%増)」や「独立行政法人等(同 7.6%増)」のほか、「沖縄県(同 9.6%増)」や「市町村(同 136.5%増)」、「その他の公共的団体(同 28.0%増)」も前年同月を上回りました。

【参考】公共工事（年度累計）・・・公共工事請負金額は前年同期を下回る。

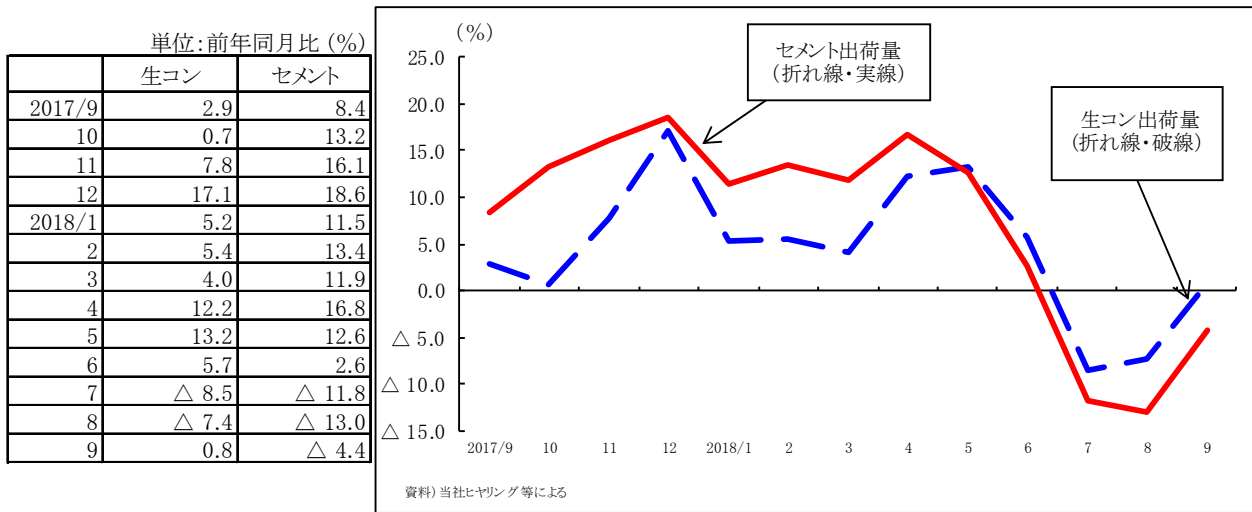
単位:百万円、%

	2017年度	2018年度	累計比 (右軸)
4月	17,823	22,513	26.3
5月	16,886	16,134	11.3
6月	33,703	25,324	△6.5
7月	45,031	26,729	△20.0
8月	41,576	36,794	△17.8
9月	23,363	37,192	△7.7
10月	28,073		
11月	23,134		
12月	19,275		
1月	54,569		
2月	24,674		
3月	54,532		



今年度累計値では、7.7%減となっています。(上記折れ線グラフ)

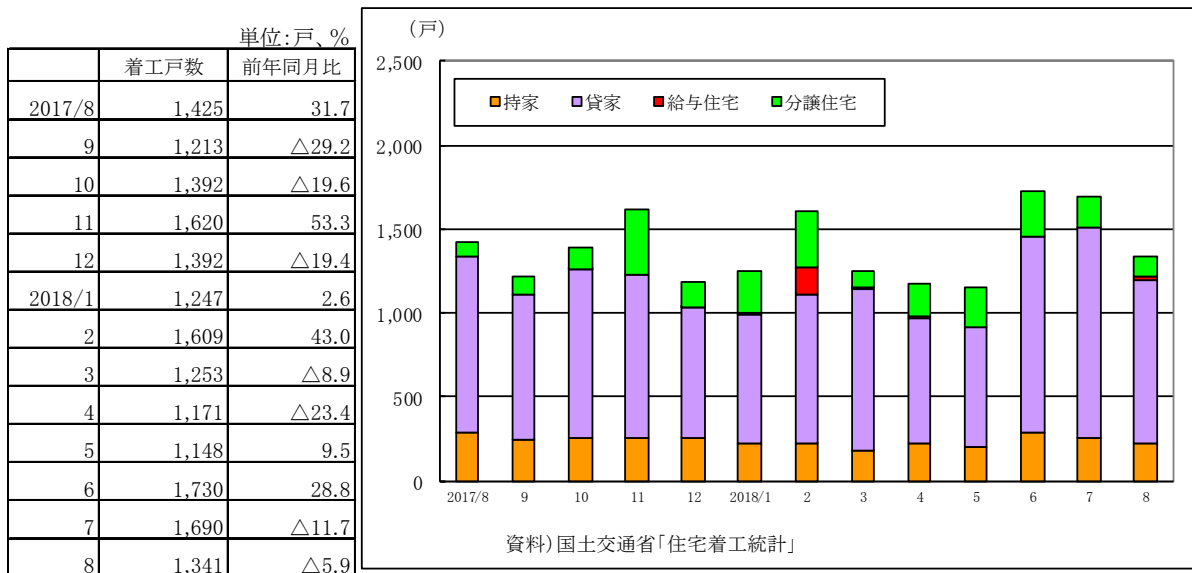
②建設資材・・・生コンは前年同月を上回り、セメントは下回る。



(注1) セメント出荷量は、速報値につき、確報にて修正される場合がある

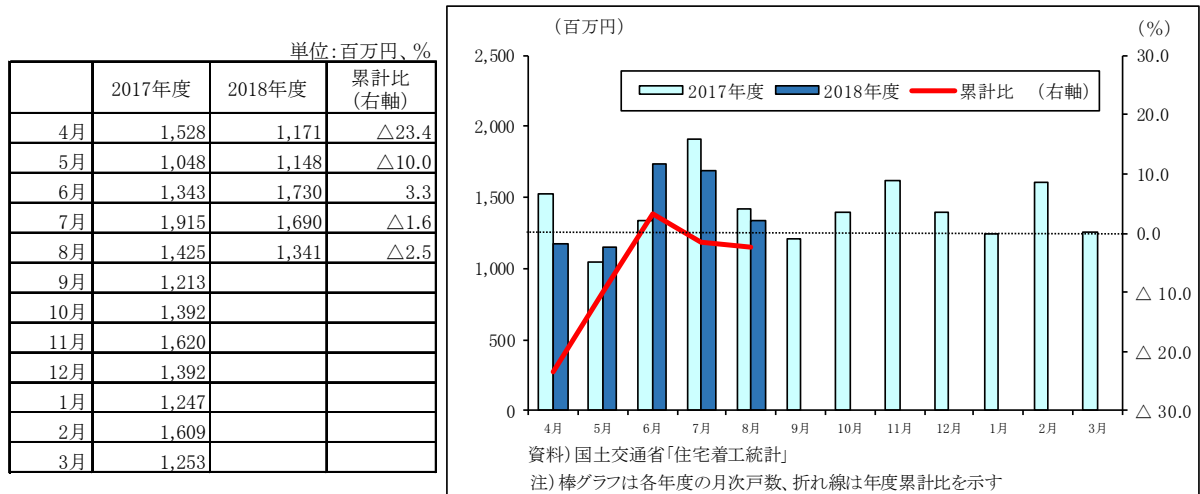
建設資材関連では、生コンの出荷量は0.8%増と3ヵ月ぶりに前年同月を上回りました。内訳では、公共工事向け出荷が前年同月より5.3%下回り、民間工事向け出荷は3.7%上回りました。セメント出荷量は4.4%減と3ヵ月連続で前年同月を下回りました。

【参考】住宅投資(8月)・・・着工戸数は前年同月を下回る。



新設住宅着工戸数(8月)は、全体で前年同月比5.9%減の1,341戸と2ヵ月連続で前年同月を下回りました。利用別戸数をみると、ウェイトの高い「貸家(同6.1%減)」や「持家(同25.0%減)」は前年同月を下回りました。一方で、「給与住宅」や「分譲住宅(同30.4%増)」は上回りました。

【参考】住宅投資（年度累計）・・・8月までの着工戸数は前年同期を下回る。

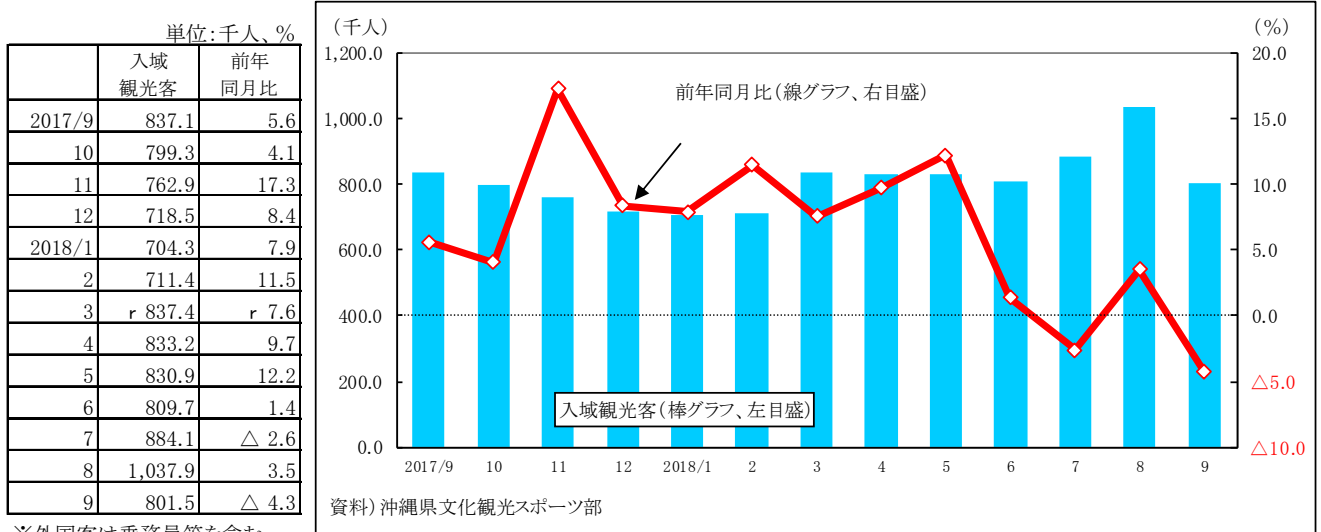


年度累計でみると、8月までの累計値で2.5%減となっています。



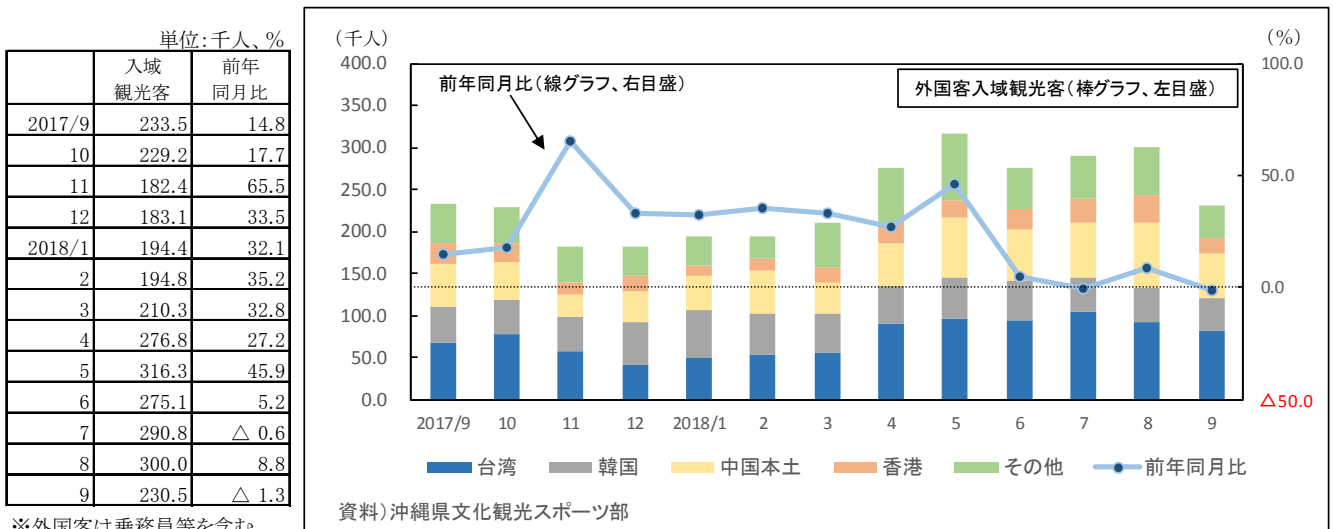
■観光関連： (やや良い)

①入域観光客数 (国内客・外国客の合計)・・・2ヵ月ぶりに前年同月を下回る。



※外国客は乗務員等を含む

外国客 入域観光客数・・・2ヵ月ぶりに前年同月を下回る。



※外国客は乗務員等を含む

9月の入域観光客数は、35,600人少ない801,500人(前年同月比4.3%減)となり、2ヵ月ぶりに前年同月を下回りました。

内訳をみると、「国内客(同5.4%減)」は571,000人と、敬老の日や秋分の日などの連休、大型音楽イベントの開催等があったものの、関西国際空港の一時閉鎖や台風の影響による航空路線の欠航があったことなどから、2ヵ月連続ぶりに前年同月を下回りました。

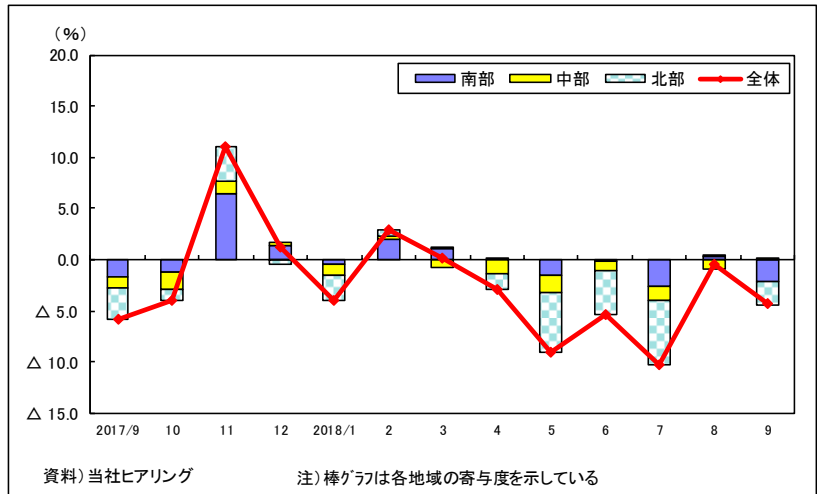
他方、「外国客(同1.3%減)」は、230,500人と2ヵ月ぶりに前年同月を下回りました。秋夕連休や中秋節があったものの、台風の影響による航空路線の欠航があったことなどから、前年同月を下回りました。「台湾(同20.5%増)」「韓国(同6.9%減)」「中国本土(同4.8%増)」「香港(同26.0%減)」

※乗務員等を除く2018年9月実績＝全体775,100人(同3.7%減)、外国客204,100人(同1.4%増)、国内客は変わらない。

② 観光施設入場者数・・・6ヵ月連続で前年同月を下回る。

単位: %

	入場者数(前年同月比)			
	全体	南部	中部	北部
2017/9	△ 5.8	△ 4.7	△ 10.5	△ 5.6
10	△ 4.0	△ 3.1	△ 14.5	△ 2.0
11	11.1	15.7	9.7	7.3
12	1.2	3.2	3.2	△ 1.2
2018/1	△ 4.0	△ 1.2	△ 7.7	△ 5.1
2	2.9	5.6	1.8	1.2
3	0.2	2.6	△ 7.0	0.1
4	△ 2.9	0.1	△ 11.3	△ 3.1
5	△ 9.0	△ 4.0	△ 14.6	△ 11.7
6	△ 5.3	△ 0.5	△ 8.5	△ 8.4
7	△ 10.3	△ 7.8	△ 12.8	△ 11.3
8	r △ 0.5	r 1.0	△ 7.5	0.1
9	△ 4.3	△ 6.0	1.0	△ 4.2



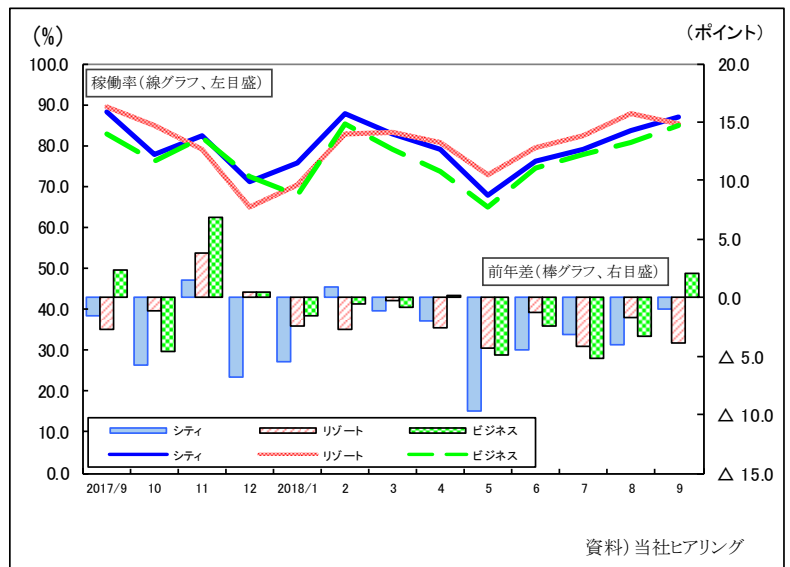
※調査対象施設数=南部6、中部6、北部5施設
※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。

観光施設入場者数は、全体で前年同月より 4.3%減少(6ヵ月連続)しました。地域別にみると、南部にある観光施設は同 6.0%減と2ヵ月ぶり、北部は同 4.2%減と2ヵ月ぶりに前年同月を下回り、中部は同 1.0%増と7ヵ月ぶりに前年同月を上回りました。

③ ホテル稼働率・・・ビジネスホテルは前年同月を上回り、シティホテル、リゾートホテルは下回る。

単位: %、ポイント

	稼働率			前年同月差		
	シティ	リゾート	ビジネス	シティ	リゾート	ビジネス
2017/9	88.0	89.3	82.8	△ 1.5	△ 2.8	2.4
10	77.6	84.9	76.3	△ 5.8	△ 1.1	△ 4.6
11	82.4	78.9	81.8	1.5	3.8	6.8
12	71.2	65.0	72.5	△ 6.8	0.5	0.5
2018/1	75.8	70.5	68.0	△ 5.5	△ 2.4	△ 1.6
2	87.8	82.8	85.2	0.9	△ 2.7	△ 0.5
3	82.8	83.0	79.0	△ 1.2	△ 0.2	△ 0.8
4	78.9	80.5	73.6	△ 2.0	△ 2.6	0.2
5	67.9	72.9	65.0	△ 9.7	△ 4.3	△ 4.9
6	76.0	79.5	74.4	△ 4.5	△ 1.3	△ 2.5
7	79.0	82.4	77.8	△ 3.2	△ 4.2	△ 5.2
8	83.5	87.9	80.5	△ 4.1	△ 1.7	△ 3.3
9	87.0	85.4	84.9	△ 1.0	△ 3.9	2.1



注) シティ8ホテル、リゾート18ホテル、ビジネス7ホテル

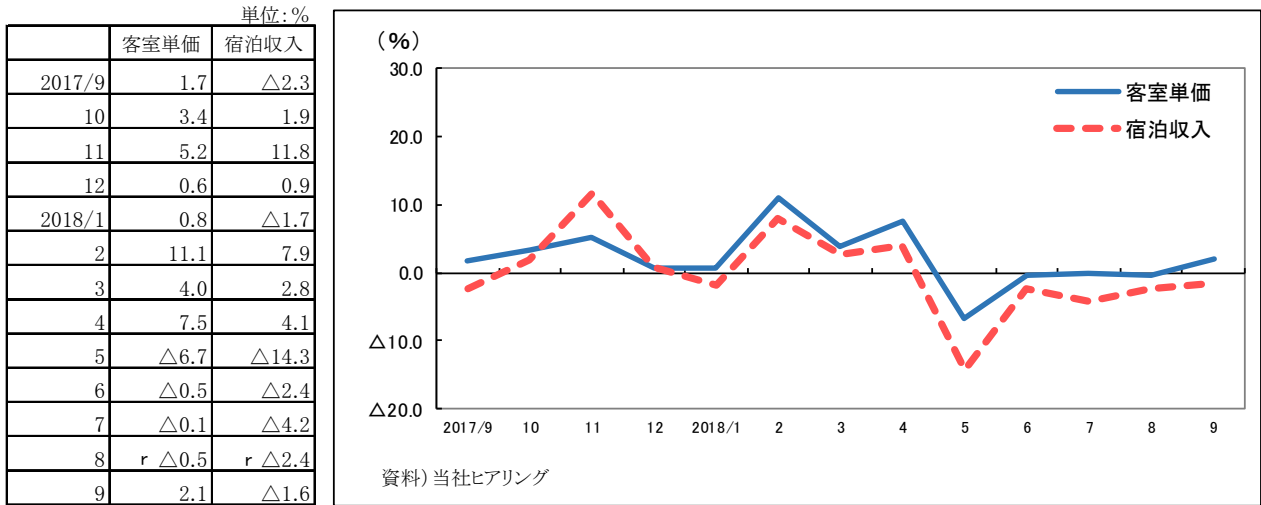
注) 2018年4月については、サンプル調査の都合上、ビジネスホテルは6ホテルとなっている。

注) 2018年1月より、シティホテル対象施設数が変更(9⇒8)となったことから、2017年1月以降の数値を遡って改定した。

※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。

県内ホテル稼働率は、シティホテルが 87.0%と 1.0ポイント減少(7ヵ月連続)、リゾートホテルが 85.4%と 3.9ポイント減少(9ヵ月連続)、ビジネスホテルが 84.9%と 2.1ポイント上昇(5ヵ月ぶり)しました。

④ ホテル客室単価・宿泊収入・・・客室単価は前年同月を上回り、宿泊収入は下回る。



※対象施設数: 26施設(シティ8、リゾート18)、ビジネスは除く

※客室単価は26施設の平均値、宿泊収入は各施設の推計値の総額(稼働率及び客室単価より当社推計)

※2018年1月より、シティホテル対象施設数に変更(9⇒8)となったことから、2017年1月以降の数値を遡って改定した。

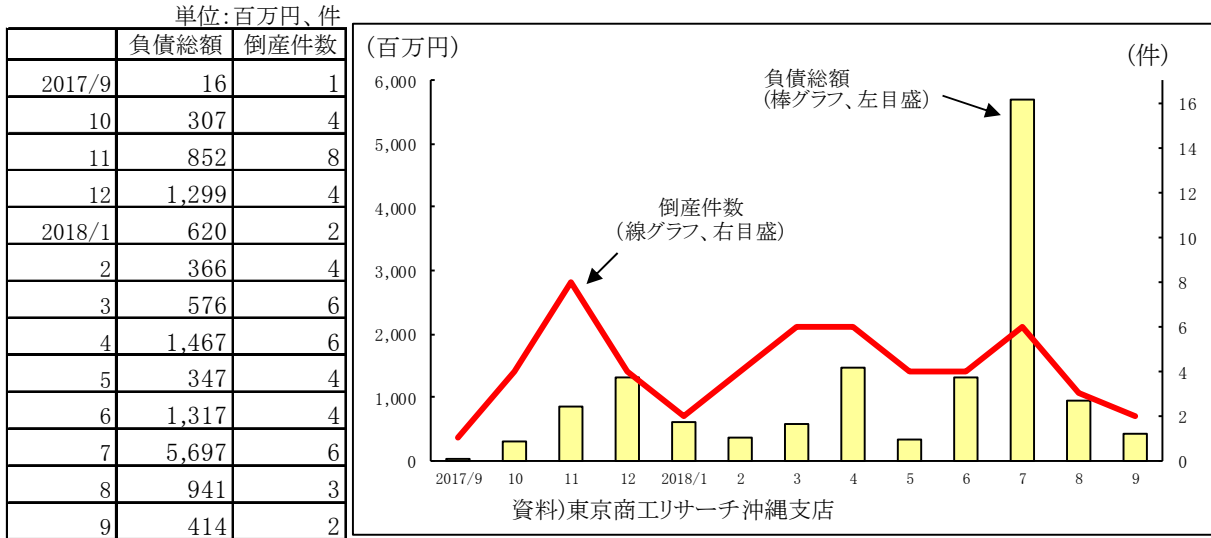
※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。

ホテル客室単価(シティ&リゾート)は前年同月比 2.1%増と前年同月を上回りました。**宿泊収入**は同1.6%減と前年同月を下回りました。



■企業倒産： (やや良い)

企業倒産・・・件数、負債総額はともに前年同月を上回る。

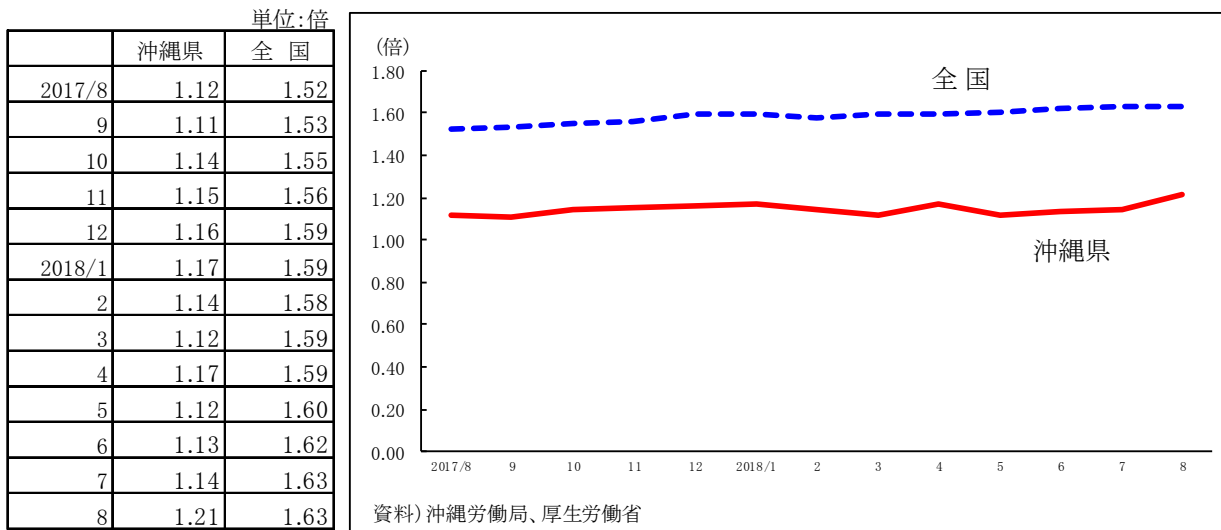


9月の企業倒産件数は、2件(うち大口倒産は1件)となり、同100.0%増と前年同月を上回りました。
負債総額は4億1,400万円となり、前年同月より2,487.5%増(約25.9倍)となりました。



【参考】雇用関連： (良い)

有効求人倍率(8月)・・・沖縄は上昇し、全国は横ばい。

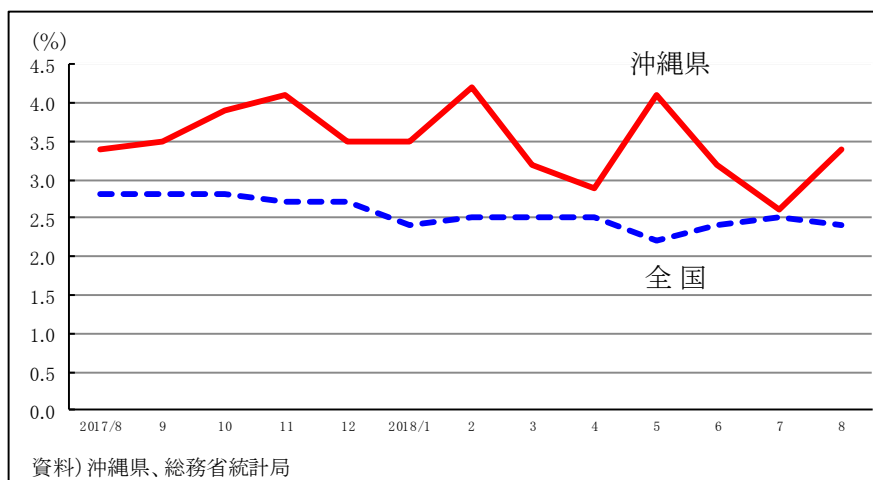


注) 季節調整済

8月の雇用状況は、月間有効求人数(季節調整値)は前月比4.2%増の29,591人に対して、月間有効求職者数(同上)は前月比2.0%減の24,385人となり、有効求人倍率(季節調整値)は1.21倍となり前月より0.07ポイント上昇しました。

完全失業率（8月）・・・沖縄は前月より上昇し、全国は低下。

	単位:倍	
	沖縄県	全国
2017/8	3.4	2.8
9	3.5	2.8
10	3.9	2.8
11	4.1	2.7
12	3.5	2.7
2018/1	3.5	2.4
2	4.2	2.5
3	3.2	2.5
4	2.9	2.5
5	4.1	2.2
6	3.2	2.4
7	2.6	2.5
8	3.4	2.4



注) 季節調整済

8月の完全失業率(季節調整値)は、3.4%となり前月より0.8ポイント上昇しました。